

令和3年度決算総括質疑の概要

令和4年第3回二宮町議会定例会

日時 令和4年9月12日(月) 午前9時30分より

| No. | 質問議員 | 質問の概要(本人の提出原稿) |
|-----|---------|---|
| 1 | 渡辺 訓任議員 | <p>令和3年度は、新型コロナウイルス感染症に対する感染防止と経済対策を引き続いて実施するとともに、「ことわらない相談窓口」の設置、地域集会所の耐震設計の実施など、暮らしを支える施策は一定の前進をしたと考える。一方、財政面では、実質単年度収支が約2億4千万円と昨年より大きな増加、一般会計関連の基金残高は合計23億円に迫っている。</p> <p>後期基本計画にうたわれている「4つのまちづくりの方向性」に沿って、取り組みがどのようになされてきたか、また、今後の方策について伺う。</p> <p>「生活の質の向上と定住人口の確保」</p> <p>① コロナ禍の中で教員、保護者の方が改めてその良さを見直すことになった少人数学級の先行実施については国・県の動きにあわせるというところに留まった。一方で、施設分離型小中一貫教育校の設置推進が進められ、来年度から町の小中5校を一つの小中一貫教育校として、分離型でスタートすることが進められている。さらに、30年先とされていた施設一体型の小中一貫教育校の設置が「20年よりできるだけ早く」と早められている。令和3年度に急激に方針が変わった背景は。</p> <p>「環境と風景が息づくまちづくり」</p> <p>② 7月の大雨で吾妻山公園の一部が崩落し、町道10号線の一部が通行不可能になったことは、レッドゾーン指定の斜面が大雨で崩れ、被害を与える可能性を現実を示すものとなった。災害と、山林の植生管理などの環境保全の関連について、町の認識はどうかか。</p> <p>「交通環境と防災対策の向上」</p> <p>③ 新庁舎整備へ向けての動きが進むことを期待したが、新庁舎の建設予定地を果樹公園としたことで、新たな土地購入の交渉や負担が生まれた。さらに、購入したホテル跡地については、議会が設計予算を認めなかったため、多目的施設の計画も止まっている。駅前からラディアン施設の整備について、今後の見通しはどうか。</p> <p>「戦略的行政運営」</p> <p>④ 経常収支比率は、依然高いレベルにある一方、駅・ラディアン周辺まちづくり計画、各施設の補修・管理・長寿命化、子育て支援・高齢者支援の拡充の要望、災害への備え・対応、さらに、教育については、GIGAスクール運営や学校教育の施設を今後どうするかなど、財政に対する圧力はさらに強まると考える。町財政について、現状の認識と今後の運営についての考えは。</p> <p style="text-align: right;">以上</p> |

| | | |
|---|--------|--|
| | | <p>令和3年度町長施政方針に沿って総括質疑を行います。議員として第一期目最後の定例会での質疑になります。これまでの議員活動の総括としての質問になります。</p> <p>「生活の質の向上と定住人口の確保」</p> <p>○交通弱者対策を巡っては、これまでも一般質問等でこの町の在り方を問い、或いは持論を展開してまいりました。令和3年度施政方針に示されている「一部地域の買い物や通院を支援する組織」や「福祉有償運送等運転者講習」は実質的に交通弱者対策にどのような効果があったのか。</p> <p>○小中一貫教育校を巡る問題</p> <p>令和3年12月定例会において「5校すべての学校を長寿命化し20年後には1校にする」旨の発言が教育委員会事務局からあり、令和4年2月には「分離型小中一貫教育校を加速化する」との発表があった。20年後の関係者の年齢を考えると既に責任の存在しない未来であり、また、分離型小中一貫教育校の内容が明らかになるにつれ、中身の薄いものと言わざるを得ない。役場新庁舎建設に巨費を投じる意欲が感じられる一方で、教育にはお金を掛けたくないということか。県は「神奈川県における自主的な市町村の合併の推進に関する構想」のもと市町村の自主的な合併を推進している。合併により役場庁舎は不要になる可能性がある一方、教育は変わることなくその時代時代における最適な環境を町民に提供し続けなければならない。「役場庁舎」と「小中学校」に対するお金の掛け方が逆ではないか。町長の見解を改めて問う。</p> <p>「交通環境と防災対策の向上」</p> <p>○役場新庁舎計画を巡る問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現庁舎は「耐震脆弱」で、いつ地震が来てもおかしくない状況下、スピード感を持って対応するため「公共施設再配置計画から切り離す」としていた。しかしながら未だ建設の目処が立っていない。職員や来庁者の安全性に鑑み、なぜ少なくとも現庁舎1階部分は閉鎖し、仮庁舎に移転しないのか。 ・なぜ、2回に及ぶ議会否決に応じないのか。その一方で否決を受けて「ワークショップ」を開催している。正当な選挙により選ばれた議員により構成させている議会の議決を覆すために公正であることが担保されない一部町民の意見を取り上げ「町民の理解を得た」ように見せかけているような印象を受ける。甚だしい議会軽視ではないか。 <p>「戦略的行政運営」</p> <p>○とりわけ行政のチェック機能としての役割に鑑み、二宮町議会は適正に機能しているといえるか。「我々職員は、日ごろ町長から、議員のご質問に対して、その場のやり取りに終始するのではなく、その後ろにいらっしゃる町民の方々にもわかりやすく答弁するよう指導されています。」との答弁があった（令和元年9月定例会）。このような指導は具体的にいつどのような形で行われたか。また、指導が徹底されていることをどのような形で確認しているか。</p> <p>○女性職員が男性職員からハラスメント行為を受けたとして町を相手に起こした訴訟を巡り、町は第2回定例会での関連議案可決を受け、国家賠償法に基づく求償権を行使、賠償金を求め男性職員に横浜地裁小田原支部に提訴しました。これらの一連の訴訟を巡り、村田町長が裁判沙汰を避けるために行った努力を説明願いたい。</p> <p style="text-align: right;">以上</p> |
| 2 | 松崎 健議員 | |

| | |
|------------------|--|
| <p>3 一石 洋子議員</p> | <p>令和3年度は、引き続きコロナ感染症に翻弄されながらもウィズコロナの生活回復を見据えながら行政は各施策に取り組み続けてきた。更に現在の世界状況から日本の今後の生活環境を護るために未来に向けた地域づくりは、より長期的な視野で行政と住民が知恵と力を合わせる変革が必要だ。</p> <p>特に、福祉分野のニーズの増大と環境、防災施策の強化は喫緊の課題であり、決算に於いて行政の尽力の内容を共有し、今後を考えたい。</p> <p>以下の項目で総括的に質問する。</p> <p>「生活の質の向上と定住人口の確保」</p> <p>① 令和3年度一般質問で重層的支援体制整備事業の法整備の一環から、複合的な困難を持たれる方々への相談支援事業として「ことわらない相談窓口」を要望した。設置により重層的な様々な困難をもつ方々が相談し易い窓口が出来たと評価する。しかしながら、このコロナ禍、最もケアが遅れているのが若年層の困難者への施策と思う。質問時の回答の通り町は、ひとり親世帯への支援を筆頭に子育て世代包括支援センターにはぐ、及び児童相談窓口等で県の施策と協働してセーフティネットの構築に努めてきたと理解している。福祉は、今後もさらに最も重要な分野で社会状況から更なる困難者の増加は必至だ。</p> <p>また、介護保険制度等で進展するもコロナの影響を受けた高齢者福祉施策についての状況はどうであったか。</p> <p>まずは、令和3年度の相談支援の成果を聴きたい。</p> <p>② 教育は、二宮町に最も研鑽を積んでほしい分野で、住民・人が資産である町に相応しいチャレンジが求められる。また社会状況と不登校児童生徒の増大から、今を生きる子どもたちの成長環境には、なお一層の注力が必要と考える。小中一貫教育、コミュニティスクール運営促進事業の成果及び今後の可能性を確認する。</p> <p>「環境と風景が息づくまちづくり」</p> <p>① 吾妻山を、展望を売り物に観光施策の中心に据えるのみならず、観光さえもSDGsに引き付けて未来の子どもたちの生きる町に資する政策としたい。二宮町と環境団体が協働する環境づくりフォーラム(エコフェスタにのみや)は令和3年度大きな進化を遂げた。そもそも町長が議員時代に関わって出来たプラットフォームだ。二宮町の環境に係るHPの充実に職員の情熱を感じる。公民連携がこのような情熱を生む形こそ21世紀の一縷の望みと考える。令和3年度環境保全推進事業の成果と展望を問う。</p> <p>② シンボル事業とした東大果樹園跡地は二宮らしいオリジナルな子育て世代の創造力の発露を促しSDGsに多様な成果が期待できる複合事業への可能性が見えたと評価する。</p> <p>如何にこれを評価し展開をサポートするのか聴きたい。</p> <p>「交通環境防災対策の向上」</p> <p>二宮町は相模湾沿いでも小山群の多い特色のある風土を持つ。全国的に放置されている森林であるが薪山として使われなくなっ</p> |
|------------------|--|

| | | |
|---|---------|--|
| | | <p>て手の入らない山林にいかにか SDGs の観点から多元的に関わり、結果として森林の持続可能性、土壌環境価値を生み出す体系を創っていけるか令和3年7月の吾妻山崩落は強く私たちに訴えたと考ええる。</p> <p>復旧工事の全容、令和3年度の決算の内容と調査の進捗について確認したい。</p> <p>さらに崩落危険区域の住民の安全を守るための施策を問う。</p> <p>「戦略的行政運営」</p> <p>職員育成推進事業の内容と第6次総合計画など町民とのコミュニケーション、合意形成に係る方法、まちづくりに関わる子どもから大人までの幅広い参画に向けたビジョンを問う。</p> <p style="text-align: right;">以上</p> |
| 4 | 坂本 孝也議員 | <p>令和3年度町長施政方針に沿って総括質疑を行います。</p> <p>村田町政は町づくりに対して町民の満足が得られ充実した成果が上がったと思われますか？やり残したことがありますか？</p> <p>行政は終わりがありません。町が存続している限り永遠に続くのです。歴代の町長はその歴史の中で今日まで二宮町を支えてきたわけですから。そこで村田町長は、どのような町を目指して取り組んできたのでしょうか。</p> <p>初めに「生活の質の向上と定住人口の確保」の中の学校教育関係を伺います。</p> <p>①小中一貫校の導入について ②移住、定住相談について</p> <p>次に「環境と風景が息づくまちづくり」についてです。</p> <p>①東京大学果樹園跡地について ②産業の振興について</p> <p>3番目は「交通環境と防災対策の向上」についてです。</p> <p>①新庁舎問題（ラディアン周辺にこだわる理由は） ②葛川溢水問題（国、県へのアプローチ） ③地域集会施設問題</p> <p>最後に「戦略的行政運営」について伺います。</p> <p>①庁内の一体感（チームワーク）</p> <p style="text-align: right;">以上</p> |

備考：2番目以降の質問開始時刻は、直前の質問終了後となりますので、不確定です。
本人の通告書の原稿を転記したものです。